

副会長新任挨拶

姥ヶ山自治会
副会長 内山 毅重

今年度より自治会副会長という大役を仰せつかり身震いをしている昨今です。自身自治会活動に於いては、五丁目ブロック、総務部、文化育成部として微力ながら活動をしてまいりましたが、それも今回の役職に於いての業務遂行に役立つのではないかと考えております。

当姥ヶ山自治会は日本海側唯一の政令指定都市である新潟市の中央区に位置し、都市部と田舎が絶妙に組み合わせられた街であり、種々の伝統行事を行ってききました。夏祭り、町民大運動会、さいの神等々を開催し、また他各専門部主催の各行事を行い、地域住民とのつながりを大切にしてまいりました。この良き伝統は今後とも引き継いでゆきたいと思っております。

今回承った副会長の役職は、永らく新潟マイクロコンピュータ代表の松原益雄さんが務めて参りました。文字通り自治会の頭脳として活躍をして頂きました。私自身も大変お世話になり、感謝しております。松原さんに一歩でも近付ける様、スキルアップをしてゆかねばなりません。が、若干の不安はぬぐえません。

とは言え引き受けたからには、職責を全うしなければなりません。歴代の役員他諸先輩の方々にもご指導を賜りながら、自治会発展の為、お役に立てれば幸甚と考えております。

会計新任挨拶



会計 田中 浩

はじめまして。

この度、姥ヶ山自治会会計を拝命いたしました。生まれも育ちも姥ヶ山の田中浩と申します。実父が以前自治会長を務めていた際は皆さまに大変お世話になりました。

私の経歴を申しますと、地元の大学卒業後、三十年以上地方銀行に勤務し県内外を転々としておりました。定年前に自宅通勤が可能な一般企業への出向を希望し、今年三月より正式に冠婚葬祭の会社へ籍を移し、本社の経理部門を担当しています。銀行時代と比べ休暇日数が激減したものの、比較的ストレスの少ない毎日を過ごせています。銀行員時代転勤商売のため、地域行事などに接する機会が少なかったのですが、転勤の心配がなくなった現在では腰を据えて地域と関わり、何らかの形でお役に立てればと思っております。

新しい職場には自転車通勤し、仕事が終わった日にはスポーツジムへ通うほか、休日には早朝からゴルフをするなど、運動不足解消に努めています。一方で、外食先ではメガ盛りと呼ばれる店を好み、カレーやラーメン、かつ井など高カロリー食品をよく食べるため、カロリー消費量が摂取量に追いついていません。

銀行員⇄企業の経理担当という職歴からは数字に強いと考えられる方もいらっしゃる気がしますが、なにぶん慣れでわからないことが多いのが実情です。また現在の職場は休暇が少なく、連絡等においても皆様にご不便をおかけすることもあるかと思えます。なるべく御迷惑をおかけしないよう頑張りますので、何卒よろしく願います。

部長新任挨拶

文化育成部長
神田 雅彦

皆様、こんにちは。

六丁目在住の神田雅彦と申します。私はこの度、自治会の文化育成部部長として新任させていただくこととなりました。まずはじめに、皆様に対して心からのご挨拶を申し上げます。

文化育成部では、夏休みのラジオ体操と秋の町民大運動会という二つのイベントを開催いたします。

ラジオ体操は、健康促進と地域交流を目的として、朝行われる体操イベントです。ぜひ、皆さんにご参加いただければと思います。

また、秋の町民大運動会では、地域の絆を深める機会として、様々な競技やゲームを通じて楽しみを共有致します。ご家族や友人とご一緒に参加し、心地よい秋のひとときを過ごしていただければと思います。

私たち文化育成部一同は自治会役員の方々のご協力をいただき、イベントの準備・運営を進めて参ります。皆さんの温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

他の行事に於いては、諏訪社のお祭りや塞ノ神といった行事も行われます。こういったイベントや行事はコロナウイルス感染症により三年程度休止になった行事が多々ありましたが、昨年度から又再開される様になりました。これから又、以前の様に皆さんで力をあわせ地元地域の文化・伝統を守っていきける様、努力して参ります。

最後になりますが、皆さんの声に真摯に耳を傾け、地域の皆さんの期待に応えられる様、微力ではありますが、全力で取り組んでまいりたいと思えます。どうぞご指導の程よろしく願います。

退任挨拶

前副会長
松原 益雄

今年度の自治会役員改選により、副会長を退任いたしました。

執行役員は、平成十八年から衛生部長を四年、平成二十二年から生活安全部長を十年、令和二年から副会長を四年間務めさせて頂きました。

衛生部長就任時は、「やぶ蚊」対策が、成虫への粉剤散布から雨水樋へのボイフラ駆除用錠剤投与への移行時期で、保健所の講習会に参加したり錠剤の準備や投与計画で苦労しました。

生活安全部では、防災訓練のご指導は、それまでは消防署・消防団だけでしたが、日本赤十字社にもお願いして、四回ご指導頂きました。

副会長就任時は、コロナ禍が始まり自治会活動も大半が自粛となりましたが、秋には、新しい自治会館が完成し明るい話題となりました。そして、昨年から全ての事業がコロナ禍以前と同様に行えるようになりました。

プロジェクト(まつり・さいの神)では事務局でしたが、まつりで八十人、さいの神では百人の実行委員の協力により開催され、毎回、大盛況でした。

姥ヶ山自治会は、世帯数が多いため各事業とも大勢の参加者を想定した準備が必要なものも多く、主催者は大変です。二年ごとに役員改選があり、専門部員の交代もありますが、毎回適任者が選任され各事業が承継されてきました。今後も、改選ごとに世代交代が進みながらも各事業の承継と発展に期待いたします。

今後は、気楽に各種行事に参加させていただきます。楽しみたいと思えます。

お世話になりました

前会計
阿部 毅

平成二十八年から四期八年自治会会計を担当致しました。

その間、各ブロックの会計担当・総務担当・各班長の歴代の皆様には、自治会費の徴収、赤い羽根・赤十字・歳末助け合い募金のお願い等々、多大なご負担をお掛け致しました。この場を借りまして御礼を申し上げます。お陰様で何とか八年間を乗り切ることができました。ありがとうございます。

それにしても、今思い起こしてもこの八年間はなかなかの八年間でした。平成から令和への改元があり、令和に入ったとおもったら、新型コロナウイルス感染症というとてもない感染症がまん延し、毎年開催されておりました、自治会の会合・イベントなども中止を余儀なくされました。財政的にはちよつと助かったのですが、いやはや。

そのような中でも、歴代の会長・役員の方々が実現に向けてご尽力されました姥ヶ山自治会館の建て替えが実現できたことは誠に喜ばしいことでありました。資金的にはとても厳しいものがありましたが、長年コツコツと貯めてきた建設積立金、新潟市よりの補助金、それでも足りず、さて、どうしようというときに不足分を快く貸付してくれた姥ヶ山農地組合。なんとか三本の矢で実現にこぎつけました。

これからの姥ヶ山自治会の発展のベースキャンプとして大いに活用をお願いいたします。

姥ヶ山自治会の益々の発展をご祈念致しております。